

患者さんの尊厳を守る取り組み ～身体的拘束最小化チームの活動～

当院では、患者さん一人ひとりの尊厳を尊重し、安全で質の高いリハビリテーション医療を提供するため、「身体的拘束ゼロ」を目指した取り組みを行っています。

その一環として「身体的拘束最小化チーム」を設置し、多職種が連携して日々活動を行っています。

やむを得ず身体的拘束が行われている患者さんがいる場合は、チームで巡回（ラウンド）を実施し、「本当に拘束が必要か」「ほかの代替方法がないか」「よりご本人に負担のない工夫はできないか」を多角的な視点から検討しています。

チーム活動を開始して以来、身体的拘束率は着実に減少しています。今後も患者さんが自分らしく、安心してリハビリテーションに専念できる環境づくりに努めてまいります



チームカンファランス



認知症マフ



医師・薬剤師・看護師・療法士でラウンドを行います

チームラウンドの様子

点滴などを触ってしまう患者さんには、カラフルで柔らかい手ざわりのニット製品「認知症マフ」をご活用いただいています。

手元でやさしい触感を楽しんでもらうことで不安を和らげ、ミトン等の身体拘束に頼らないケアを実現しています。

